

えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団
えひめ水産イノベーション創出地域
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第18号 平成26年6月4日(水)発行

6月です。でも6月だけが……

1年のうち6月と8月にだけないものがあります。それが「祝日」です。祝日法(国民の祝日に関する法律)の第2条では、1月は元日と成人式、2月は建国記念の日、3月は春分の日、4月は昭和の日、5月は憲法記念日、みどりの日、子供の日、7月は海の日、9月は敬老の日、秋分の日、10月は体育の日、11月は文化の日、勤労感謝の日、12月は天皇誕生日と規定されており、6月と8月だけ祝日がないのです。

ところが、先月、8月11日を「山の日」とする祝日法の改正案が了承され、今国会中に成立して2年後の平成28年から施行される見通しとなりました。6月だけが祝日のない唯一の月になってしまいます。

ところで、2年前の平成24年6月1日は、文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラムに「えひめ水産イノベーション創出地域」が採択された日です。そこで来年からは6月1日を「えひめ水産イノベーションの日」とし、祝日とはいかないまでも年休を取ってリフレッシュすることにしませんか？

えひめ水産イノベーション戦略支援プログラムも3年目を迎え、マラソンに例えると「20km地点」を通過した辺り、ゴール目指してしっかりと事業の推進に取り組んで参りますので、引き続きご支援・ご協力よろしくお願いします。

研究事業が採択されました

5月15日に農林水産省農林水産技術会議から愛媛大学南予水産研究センターが取り組んでいる「スマ」に関する研究を26年度からの3ヶ年事業として採択したと発表がありました。

これは農林水産技術会議が公募していた競争的資金である「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の「実用技術開発ステージ」の「重要施策対応型」に応募していたもので、この「重要施策対応型」は、「地域イノベーション戦略推進地域」に指定された地域において「地域イノベーション戦略」を実現するために必要な研究開発を対象としたもので、今回は4倍の競争率の中採択されました。また、「実用技術開発ステージ」全体で採択された15課題の中では唯一の水産関係の研究課題でした。

課題名は「南予地域発」新規マグロ類「スマ」の早期種苗完全養殖システムの構築で、愛媛大学南予水産研究センターが中心となり、独立行政

法人水産総合研究センターや愛媛県農林水産研究所水産研究センターと共同研究するもので、研究成果を普及・実用化を支援する組織として愛南漁業協同組合が参画しております。研究期間は、今年度から3ヶ年間で、初年度の研究費は1,820万円となっております。

昨年来、県内ではマスコミにも取り上げられ注目を集めており、今回の事業採択で大幅に研究開発が進展するものと期待されます。引き続き宇和海の漁業関係各方面の方々からのご支援・ご協力をよろしくお願いします。



スマは小型のマグロ類で、胸鰭の下に黒い斑点があることから「ヤイト(灸)」と呼ぶ地方が多い。愛南町では「オボソ」と呼んでいる。大きな群れを作らないため、まとまって獲れることがなく、市場にはあまり出回らない魚とされている。

人材育成講座の開催(第2回)

4月に開講し、水産業の6次産業化を担う人材の育成を目指した「水産イノベーションスキル修得講座」の第2回の講座が5月17・18日に開催されました。

17日(1日目)は伊方町にあるシラスの全国販売を展開する朝日共販株式会社を企業訪問し、同社会議室において代表取締役福島大朝氏から「村おこしと6次産業化」と題し、同社のシラスの生産(漁獲)・加工・販売についての戦略や同社に併設した「工場直販店+しらす食堂+工場見学」の買う・食べる・見るを体験できる「しらすパーク」の運営状況等についての講演があり、講演前にはシラス加工場を見学しました。

翌18日は宇和島市(愛媛大学宇和島エクステンション)において、県水産研究センター長金尾聡志氏から「宇和海の水産業」と題して、宇和海の養殖業の実態や水産業を取り巻く諸問題、全国的な水産物の消費の減少、県産水産物の消費拡大・販路拡大・輸出拡大への県の取り組み等について、有意義な講義がありました。



シラス加工場を見学する受講生